読書の四季

文学に触れてみよう

英語科教師　松下　昭

『読書の四季』の原稿を依頼され、新人の時に書いたと断ったが、「先生、二巡目です」と言われ、長く居るとこういうこともあるのかと結局引き受けた。読書の習慣がまだ身についていない高校生向けの選書は難しいが、若い時にぜひ読んでおきたい本を紹介しよう。

図書委員は「書評でも本の紹介でも何でも良い」と言ってくれたが、書評というのは案外難しく、先日亡くなった書評の達人丸谷才一が神様に思えてくる。書評集『快楽としての読書』（ちくま文庫）は読書欲をかきたてるが、高校生には『文学のレッスン』（新潮社）の方が良い。こちらは書評集ではなく、対談集で読みやすい。聞き役が丸谷才一の話をうまく引き出し、楽しい「文学講義」になっている。また、巻末には読書案内も付いている。

英文学に影響を受けた丸谷才一の小説は大人向けという印象がある。例えば、『女ざかり』（文春文庫）や『輝く日の宮』（講談社文庫）は徹夜してしまうほど面白い小説だが、主人公がどちらも女性で前者が新聞の論説委員、後者が源氏物語の研究者といった具合に高等科生にはちょっとなじみにくい。

丸谷才一は創作ばかりではなく、多くの英米の作品を翻訳している。その中から彼に大きな影響を与えたジョイスの『若い藝術家の肖像』（集英社）を推薦したい。主人公スティーヴン・ディーダラスの「美学論」は難解だが、文学者をめざす主人公の成長を幼年～少年～青年と年代順に描いており、ジョイスの作品の中では理解しやすい。偏狭なナショナリズムや頑迷な教会が支配するアイルランドを逃れ、自己実現のためにパリに旅立つ青年の姿に共感できるのではないだろうか。

優れた小説家でありながら名翻訳家でもある作家には、丸谷才一の他に村上春樹がいる。『村上春樹翻訳ライブラリー』（中央公論新社）があるくらい多くの翻訳を手掛けている。数ある翻訳作品の中でも、二十世紀アメリカ文学を代表するフィッツジェラルドの『グレート・ギャツビー』はぜひ読んで欲しい作品だ。主人公ギャツビーは、富裕階級のかつての恋人を取り戻すために非合法な手段まで用いて巨万の富を築くが・・・。物質的な成功に魅入られた者の幻滅と転落、破滅の美、アメリカの夢と悪夢を抒情的な語りと緊密な構成で描いており、深い余韻を残す。

村上春樹も外国文学に大きな影響を受けている。彼に影響を与えた作家の一人にカート・ヴォネガットがいる。ヴォネガットの作品は英語２の教科書に原形が分からないほど短縮された形で載っていた。翻訳は短編集『モンキー・ハウスにようこそ（１）』（ハヤカワ文庫）に収められているので関心のある生徒は読んで欲しい。また、ヴォネガットの作品の中でも特に村上に影響を与えた作品は『スローターハウス　５』（ハヤカワ文庫）だろう。

これはヴォネガットが第二次世界大戦の時に、捕虜として友軍による「ドレスデン爆撃」に遭遇した戦争体験を材料にした作品である。主人公ビリー・ピルグリム（巡礼者の意味）が時空を自由に行き来するＳＦ小説で、主人公は不条理な死に立ち会うたびに「そういうものだ（So it goes）」と呟く。小説の語りがシニカルなユーモアに包まれているにもかかわらず、何度も繰り返されるその言葉は、少しずつ溜まっていき、戦争や死について深く考えさせられる。

冬休みは活字に親しむのに良い機会である。充実した読書の時間を持ち、世界を広げて欲しい。

学習院高等科
図書委員会

会　報
No.105

発　行
2012.12.22

鳳櫻祭

開催日時

● 十一月三日（土）　九時～一五時
● 十一月四日（日）　九時～一六時

場所

学習院中・高等科図書室

テーマ

三島由紀夫と学習院

内容

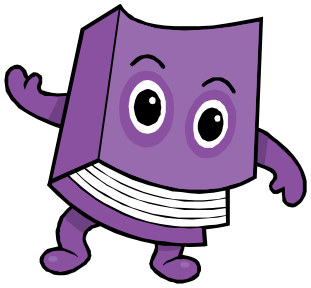
今回、図書委員会で我が校の誇るべき卒業生三島由紀夫に関する展示を行いました。例年、模造紙の展示のみで分かりにくいといわれていましたが、今回は映像による解説を加え、とても分かりやすい展示となりました。また、今回は展示が大幅にボリュームアップしました。模造紙の枚数は去年の二倍、貴重本の数は去年の三倍と、図書主任の飯島先生も大満足の内容の濃さとなりました。

今回の目玉は貴重本の多さで、例えば、『春の雪』の英語版、仏蘭西語版、中国語版や、三島の直筆のサイン入りの『黒蜥蜴』等一冊数十万する本が展示棚の上にズラリと並びました。

今回、往年の三島の姿を知る波多野院長がお越しになりました。左上はご覧になった時の写真です。

最後に

前回は白樺派、今回は三島由紀夫と学習院出身の作家シリーズを二年に渡り展示してまいりました。皆様いかがでしたか？



鳳櫻祭
～感想～

鳳櫻祭が十一月三日・四日に行われました。この二日間、皆さんはどのように過ごされましたか？

図書委員会では『三島由紀夫と学習院』という名目で我々の先輩である三島由紀夫について展示発表を行いました。また、図書室内では二年生の総合選択「文芸作品を朗読で味わう」を選択している生徒達による『小さな朗読会』という朗読発表も行われました。

図書室への来場者数は

初日　七〇三人
二日目　六五九人

でした。合計一三六二人もの方が来場されました。

この数字を見ると、鳳櫻祭当日に図書室に来られなかった方もいらっしゃると思われます。そこで！我々図書委員会が鳳櫻祭でどのようなことをしたのか、何をしてきたのかを語らせていただきます。

我々は三島由紀夫の展示を行うに向けて四つの班を結成しました。山中湖班・市ヶ谷班・ＰＶ作成班・自習班の四つです。これだけ聞いても何を行ったのかわからないという方が多いでしょう。なので、これから各班が何をしたのかを大まかに説明していきます。

・山中湖班

山梨県の山中湖近くにある文学の森という場所に「三島由紀夫文学館」があると聞き、山中湖まで行きました。館内では三島由紀夫の生原稿や仕事場の再現などを見ることができました。

・市ヶ谷班

東京都の市谷本村町にある防衛省を見学させていただきました。目的は三島由紀夫の自決した場所の訪問です。三島事件で、三島由紀夫が自衛官と切りあった際にできたとされる刀傷などを見学することができました。

・ＰＶ作成班

三島由紀夫、図書室、そして図書委員会についてのＰＶを作成しました。出来は中々のものになったと自負しております。当日は図書室の入口付近の廊下でも流していたので、見てくださった方も多いのではないでしょうか。

・自習班

その名の通り、自習です。山中湖や防衛省を伺ったのは夏休みなので、予定の合わなかった委員等は各自で三島由紀夫について調べました。

↑　展示を眺める高等科生と解説する図書委員
陰に隠れてしまっているほうが図書委員である